



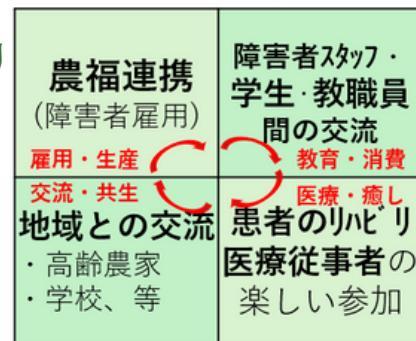
NEWS!

藤田医科大学の農福連携への応援の広がり

農業と福祉を結びつける「農福連携」について本年5月の本稿で藤田医科大学の取組みを紹介しましたが、その後の進捗を報告します。

全国的なネットワークが、農福連携の実践者と学会の両面で相次いで発展しています。藤田医科大学の農福連携はスタートしたばかりですが、こうしたネットワークの関係者から温かい声かけ、応援をいただいている。

医科大学ならではの『地域共生農園』へ
教育研究、医療、地域共生に広がる構想



解説

全国規模で広がる農福連携

11月22日: 農福連携を自然栽培で取組む実践者の集まる「自然栽培パーティ全国フォーラム」が豊田市で開かれ、説明依頼を受け、藤田医科大学からも登壇しました。

12月14日: 農福連携に関わる実践者、研究者、行政関係者が集う「農福連携学会」が設立されました。日頃からご助言いただく吉田行郷先生（千葉大学園芸学部教授）が会長に選任されました。吉田先生からは、以前より、せっかく病院を有する医科大学が取り組むのであればこそ、その特性をいかした農福連携となると良いと共生農園構想を応援いただいている。こうした吉田先生が会長に就任され、心強い限りです。

ポイント

藤田医科大学の取組み

12月16日: 愛知県の古瀬陽子副知事が藤田医科大学を来訪され、幹部挨拶ののち、スマイルチームの障害者スタッフによる清掃作業、パン販売、そして共生農園を視察いただきました。

12月23日: 大学の共生農園での初めての収穫としてジャガイモの掘りを予定しています。この収穫には、障害者スタッフのみならず、教職員、学生、地域の農家、行政担当者の参加を予定しています。障害の有無にかかわらず、地域社会と連携して実施できればと、毎日、天気予報を見ながら楽しみにしています。収穫したジャガイモは、大学病院の食養部（食事提供・栄養管理部門）と相談して、まずは病院給食に利用いただく予定です。

ひと言メモ

藤田医科大学の障害者雇用の特徴

藤田医科大学の障害者雇用の特徴は、各障害者スタッフが毎日、清掃、パン販売、農作業と色々な役割を担当する「ローテーション方式」です。古瀬愛知県副知事からも、単調にならずやりがいを引き出していると評価いただきました。これが可能なのも、サポートスタッフが障害者スタッフの個性、得意・不得手を考慮して一人ひとりの成長につながるようにスケジュールを組む努力と、それに応える障害者スタッフのやる気と好奇心です。

農福連携にもひと工夫。障害者スタッフ、教職員、学生も広い意味で地域の一員。多様な人々の参加で、地域社会とのつながりが深まり、地域に身近な大学になればと願っています。

連絡先

藤田医科大学 地域共生社会推進センター

センター長 堀江 裕

【事務局】 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98

藤田医科大学2号館3階 学事部学事課

0562-93-2653 c-inclusive@fujita-hu.ac.jp

URL: <https://www.fujita-hu.ac.jp/c-inclusive.html>